

日本鐵鋼協會記事

理事會 昭和5年9月10日(水)午後5時開會 **出席者** 俵 國一君 河村 驍君 種子田右八郎君 渡邊三郎君 香村小録君 鹽田泰介君 服部 漸君 室井嘉治馬君 **協議事項** 1)評議員會開催に關する件(開催期日來る 10月1日(水)午後4時30分)、2)第5回講演大會に關する件、3)製鐵業參考資料出版に關する件、4)評議員正會員湯川寛吉君退會に關する件、5)入退會者承認、6)會計報告、7)名譽會員ヴユスト博士の挨拶狀報告 其他會務に關する諸件を協議し午後8時閉會せり

編輯委員會 昭和5年9月3日(水)午後5時開會 **出席者** 石原善雄君 田中清治君 室井嘉治馬君 海老原敬吉君 三島徳七君 鹽澤正一君 廣瀬政次君 **協議事項** 1)鐵と鋼第16年第10號掲載原稿選定の件、2)其他會務に關する諸件等にして午後8時閉會す

選定論文

- 炭素鋼の滲炭及脱炭に就いて.....村上武次郎 關口春次郎
- 製鋼作業上に於ける熔銑の酸化に關する理論的考察.....向 山 幹 夫
- 金屬マグネシウムと鹽類水溶液との化學反應に就て(定量的研究の部第2報)
.....飯 高 一 郎
- 熔銑爐操業に於ける低炭素セミスチール製造に關する研究(第2報) II堀 切 政 康

名譽會員ヴユスト博士の挨拶狀 曩に本會名譽會員に推薦せられたる、元獨逸國アーヘン大學教授フリッツヴユスト博士は8月5日附の書面にて本會々長俵博士宛、次の挨拶狀を送附せられたり。(俵會長邦譯)

井上子爵は余の70回誕辰祝賀式當日に於て貴協會の名譽會員推薦狀を非常なる好意的贊辭を以て余に贈られたり、余は斯かる名譽を享受せることを深く喜び、且つ余個人及余の努力に對して無上の榮譽を附與せられたる貴協會及貴下に對し深厚なる謝意を呈す。

爾來余の下に學びたる幾多日本海外研究生の不倦、勤勉、且つ研究に精進せる努力に對し余は常に大なる尊敬を有せし者たるを以て、貴會の名譽會員たることは即ち日本に於ける此等舊門下生が余に對する好意を表示すべきものとし余は頗る満足に感ずる所なり、終りに臨み謹で敬意を表す。

入會者承認濟 (自7月10日至9月10日)

居所又は宛名先	稱號及勤務先、職業	會員別	入會者氏名	紹介者氏名
府下大森町日本特殊鋼會社		正會員	阿部七三郎君	渡邊三郎 石原善雄
小石川區小日向臺町二ノ二	工學士 英國パリ・ガス・コ ーポレーション	〃	保坂文藏君	村松橋太郎 室井嘉治馬
日本橋區吳服橋三ノ七ノ三東京 建物ビル610 デーマク日本事務所	同支配人	〃	ハインリクヒ ゴージェンス君	今泉嘉一 寺内錦一

京都市左京區吉田橋町三三ノ二	工學博士 工學士	京都帝國大學教授	〃	西村 秀雄君	依齋 渡石	國大 三善	一吉 郎雄
大阪市西區川口町一六番地		範多商店支配人	〃	範多 龍平君			
大阪市西成區立賣堀北通 6ノ40		三更商會主	〃	梅澤 春香君			
府下大森町日本特殊鋼合資會 社鑄鋼課内			准	松田 喜一郎君		渡邊 三郎	
〃			〃	相澤 一郎君			
〃			〃	武田 正盛君			
府下入新井町新井宿西沼 680			〃	藤野 銳男君			
市外碑倉町大岡山東京工業大學 機械工學科	工學士		〃	横山 均次君		海老原 敬吉	

死亡者 (死亡通知受付順) (自7月9日至9月10日)

正會員 木村 齊雄君 (昭和5年8月22日逝去)
 同 富田 儀作君 (昭和5年8月27日逝去)
 同 宮崎 操君 (昭和5年8月27日逝去)
 准會員 生田 純次郎君 (昭和5年8月18日逝去)
 以上四氏の逝去せられたるは洵に痛惜の至りなり茲に謹んで
 哀悼の意を表す

退會者承認濟 (自7月9日至9月10日)

正會員 山口貫一、大塚信照、内田圖之市、玉村勇助、三池鑛山染料工業研究所、山崎鐵工所、須山令三 准會員 森 秀雄、土肥未治、横山一雄、跡池信仁、大隅稻次郎、青井清一郎、渡邊 漸、權藤薰平

金屬材料研究所官制改正 去る9月23日勅令を以て下の如く改正發表ありたり

勅令第178號 金屬材料研究所官制中次の通り改正す

第3條中「左の3部を」をく「左の5部」に改め「鑄物部」の次に「砂鐵部」及「輕合金部」を加ふ、

第7條中「助手は專任24人」を「助手は專任32人」に改む

附則 本令は公布の日より施行す

參照 大正11年8月9日 勅令第361號 金屬材料研究所官制抄録

第3條 金屬材料研究所に左の3部を置く。冶金部。製鋼部。鑄物部